

IRYO VOL. 42 1988 Extra Edition

# 医 療

第42卷

增刊号

第43回 国立病院療養所総合医学会講演抄録集



福島

松 山

1988. 11月10日(木)11日(金)

第3分冊

国立医療学会

JAPANESE SOCIETY OF  
NATIONAL MEDICAL SERVICES

— テタリスクリームを使用して —

(国立療養所西群馬病院 6病棟 呼吸器内科) 看護婦 ○今井香奈子・篠原保子  
小野寺正子・加藤則子・関富美代・伊藤初代・他スタッフ一同

肺癌における化学療法は、シスプラチンを含む多剤併用療法が中心に行われており、その治療効果は高い。しかし、抗癌剤には様々な副作用があり、それぞれの症状に応じた看護が重要になってきている。その副作用の中で、脱毛は女性はもちろんのこと、男性にとつても外観的变化が著明であり、大きな精神的苦痛を伴うにもかかわらず、その効果的な予防対策は確立されていない。

そこで我々は、患者の精神的苦痛をやわらげ、少しでもその改善を図るため、862年6月頃より約10例に頭皮冷却法(ダンクールキャップ使用)を行つたが、頭皮の冷感と、ダンクールキャップ着用のための圧迫感が強く、着用時間が長いため、化療施行時、吐気、嘔吐等の出現する患者には肉体的苦痛が強く、使用に際して不満の声がきかれた。このため医学誌に掲載された脱毛予防に対するテタリスクリームの効果の記事を参考に、病棟スタッフの間でその使用について検討し、862年10月より使用を開始した。その結果、頭がべたつく、なんとなく重苦しい感じがする等の不快感を訴えながらも、ほとんどの患者がその使用を受け入れ、協力的であつた。脱毛に対する従来の「しかたのない事」という受けとめ方ではなく、その防止に対して積極的にとり組む私たちの姿勢と、援助行動を通じて患者とスタッフとのコミュニケーションの中から、患者のニーズを把握し、闘病意欲の増強へつなげることが可能となつた。しかし、効果の判定は困難であり、処置を施してもなお、脱毛を著明に認められた患者に対する精神的なフォローのしかたを学ぶ事ができた。また、現在までの症例を通して患者が疾病・治療をどの様にとらえているかを個々に把握し、使用にあつてはそれぞれの患者にあつたオリエンテーションを行う事の重要性を再認識したので報告する。

— リハビリテーションチェック表を作成し使用して —

(国立佐賀病院 外科病棟)

看護婦 ○松尾智子、三好孝子、 他外科病棟 看護婦一同

近年、乳癌は増加の傾向にある疾患であり、本院で乳房切断術を受ける患者数も、61年度の15例に比べ、62年度は20例余りとなり、その数は徐々に増加の傾向をたどっている。乳房切断術を受けた患者にとって、術後のリハビリテーションは患側上肢の機能の回復を図る上で欠かす事のできない治療法である。(リハビリテーションを以後リハビリと略す)

当病棟では、今迄、術前にパンフレットを渡し、リハビリの指導を行ってきたが、実際は、パンフレットに添ってリハビリを実施しているか患者に聞き、挙上度を目測していた程度で個別性のある指導ができていなかった。又、患者のリハビリの段階把握が不十分で指導にばらつきがあつたため、患者のリハビリの段階を明確に、正確に把握できる様に、そして個別的によりよい指導ができる様にするためリハビリチェック表を作成した。

- 方法… 1. 現在使用中のパンフレットを再検討し、リハビリチェック表を作成した。  
2. 毎日体操を行ない週3回水金に運動項目のチェック及び挙上度を測定する。  
3. 挙上度測定後、次回の目標度数の設定を行い運動方法の説明及び指導を行なう。

対象… 乳房切断術を受けた患者

結果… リハビリチェック表を作成し使用してみて、患者のリハビリの段階及び進行度が明確に把握しやすくなり、指導に個別性ができた。又、患者との関わりが深まり意欲の向上にもつながる結果を得た。